

事業報告書

2015年4月1日から2016年3月31日まで



KOAからのメッセージ

私たちは、「循環・有限・調和・豊かさ」を
企業経営の価値観に置いています。



創業のビジョン 「農工一体」と「伊那谷に太陽を」

KOAは、かつて農村というコミュニティが崩壊していく中で、ひとりの青年が農村の生活基盤づくりと安定した暮らしをこの地で実現しようと興した会社です。以来、創業者の「伊那谷に太陽を」という夢をかなえるために、「農工一体」というビジョンをめざし、経営が実践されてきました。お百姓がお百姓として暮らしていける環境をつくる、それが創業当時の時代の声でした。

企業ミッション KOAを支える「5つの主体」との 信頼関係構築

そうした先人の意志を引き継ぎ、また今の時代の声に耳を傾けたとき、KOAは、株主様、お客様・お取引先様、地域社会、社員・家族、地球との信頼関係の構築に努めることを企業のミッションといたしました。KOAの経営は株主様をはじめとして、皆様とのお縁に恵まれ、お力添えをいただいで成り立っています。KOAは皆様とお近づきになれたことに感謝し、お付き合いの中で学ばせていただきながら、これらすべての主体にとっての企業価値を高めるため、企業活動に取り組んでいます。

企業経営の価値観 「循環・有限・調和・豊かさ」

企業という存在が、過去にないほど大きな影響力を全世界的に、そして地球規模でもつに至った現在、的確な時代認識の上立った経営・企業活動が求められていると私たちは考えます。20世紀は人口爆発に代表されるような「拡大・無限・征服・利便性」といった人類本位のコンセプトの時代であり、そうしたことのために人類のみならず地球上のあらゆる存在が存続の危機を迎えているのではないのでしょうか。そんな時代の切なる声に対して、私たちは「有限」の考えに立ち、人類を生かしてくれている地球環境とそこに生を受けたすべての生きとし生けるものとの調和を図り、拡大から循環、利便性から調和の中での豊かさを求めるべきではないかと考えます。KOAは企業経営の価値観を「循環・有限・調和・豊かさ」に置き、「地球あっての人類、人あっての経営」という空間（場）を、企業活動の中にできる限り設ける努力をしています。さまざまな人々のお縁あってこそKOAの経営が成り立つことを忘れずに、またその人類を生かしてくれている地球との調和を念頭にこれからも企業経営を進めてまいります。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、第88期（2015年4月1日から2016年3月31日まで）事業報告書をお届けするにあたり、ごあいさつを申し上げます。

KOAは今、技術革新・イノベーションの先に生まれるであろう市場に注目しています。そのワクワクするような少し先の未来で、ドキドキするような新技術・新製品をお客様と一緒に創り上げていく。そうした姿を私たちは「共創できる研究開発型企业」というビジョンとして掲げました。

イノベーションへの対応はスピードが重要であり、技術の自前主義では完結できないこともあります。KOAは“オープンイノベーション”を積極的に導入し、世界各エリアのイノベーションの現場で情報収集を進めていく予定です。

今回特にご報告させていただきたいのは、日本で起きているイノベーションの現場の一つである北九州に設置した研究所の事例です。

日本の中でも各所にイノベーションや技術革新の起きている場所はありますが、北九州学術研究都市は、大学や地元の手企業を中心となり、自動運転をはじめとする自動車関連、また、少子高齢化が進む日本では特に需要が期待されるロボット、そして医療などの分野の研究が盛んに行われています。

KOAも、数年前より北九州学術研究都市においてNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）のご支援をいただきながら、早稲田大学と共同で将来の水素社会に向けた水素センサーの共同開発を進めてきています。この水素センサーの共同開発とその事業化に向けた活動を加速するために北九州に研究所を設置開設することとしました。

初年度は、常駐する担当取締役1名を含むKOA社員3名と現地研究協力スタッフ4名の合わせて7



名体制で研究業務を開始しますが、将来的には本研究所をKOAの重要な研究開発拠点の一つとしていく計画です。

イノベーションの起きている北九州の地に身を置くことは、KOAの今後の技術・製品開発に有用な最新情報の収集や優秀な人材確保などにもつながり、拠点として非常に意義あるものになると考えています。

このような活動を通してKOAの社員の技術・技能をさらに向上させ、お客様と一緒に成長をし、株主様、地域社会、地球との信頼関係をさらに強くしていこうと思っています。

株主の皆様におかれましては、今後も一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2016年6月

コア
KOA株式会社

代表取締役社長 花形 忠男

営業の概況

2015年度の実績

売上状況

2015年（暦年）の全世界における固定抵抗器需要は3,220億円となり、昨年に比べ1%増加したものと推定しています。地域別に見ると、アジアでは自動車向け以外の市場の低迷により減少、日本では主な用途全般にわたる需要動向の悪化により減少、北米ではディストリビューターの在庫圧縮の動きがありましたが、為替の大幅な円安により増加、ヨーロッパでは為替の円高によるマイナス影響がありましたが、自動車向け市場の拡大により増加しました。

KOAグループの売上高は、アジアでは自動車向け需要の拡大は続きましたが、それ以外の用途向け全般が下期に落ち込みを見せ、全体では昨年と比べ4%減少しました。日本では自動車向けをはじめとして、産業機器やアマチュアメントなど主要な用途のほぼすべての需要が悪化したことにより、5%減少しました。北米では引き続き自動車向け需要が堅調に推移しましたが、その他の用途が減少したことにより、為替の円安効果があったものの、2%の増加に留まりました。ヨーロッパでは昨年大きく伸びた産業機器向け需要が今年は低迷しましたが、自動車向けの拡大により2%増加しました。

収益状況

当期業績は、売上高454億62百万円、営業利益25億91百万円、経常利益29億71百万円、親会社株主に帰属する当期純利益19億99百万円となりました。対前期比では、売上高は11億33百万円（2.4%）減少、利益面では、営業利益10億86百万円（29.5%）、経常利益16億76百万円（36.1%）、親会社株主に帰属する当期純利益14億23百万円（41.6%）、それぞれ減益という結果となりました。

売上高については、USドルの為替相場の変動による海外売上高の増加がありましたが、実質的な販売量が減少し、減収となりました。

当期末は為替が円高に動きましたが、年間平均での当期の実績為替レートは、USドル120円12銭、ユーロ132円48銭となり、対前期比では、USドルは9円50銭の円安、ユーロは5円95銭の円高になっています。当社業績への為替の年間影響額は、USドルの1円の変動につき、売上高では約1億70百万円、営業利益では約1億円です。

当期の営業外収支は、持分法投資利益などで3億80百万円のプラスになりました。

特別損益は、固定資産の処分損などで1億40百万円の特別損失を計上いたしました。

貸借対照表

当期末の総資産は691億69百万円となり、前期末に比べて、8億2百万円減少しています。

流動資産は、全体で21億7百万円減少しました。これは売上高の減少やそれに対応した在庫の圧縮と、期末における円高の影響によるものです。

固定資産は、「有形固定資産」が設備投資により、9億16百万円増加しました。「投資その他の資産」は有価証券の時価は前年と大きな差はありませんでしたが、長期投資への運用をしたことから、3億93百万円増加しました。

流動負債は、仕入債務の減少により2億44百万円減少しました。

固定負債は、「退職給付に係る負債」が割引率の見直しなどにより増加し、1億83百万円増加しました。

純資産は、「株主資本」が利益剰余金の増加により、9億71百万円増加、「その他の包括利益累計額」では「為替換算調整勘定」の減少などにより、17億10百万円減少し、

純資産は7億40百万円減少しました。

その結果、自己資本比率は80.3%になりました。

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益28億32百万円、減価償却費及び売上債権の減少などにより43億97百万円の流入を確保することができました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産取得による支出32億28百万円などにより35億32百万円の資金の流出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより10億25百万円の流出となりました。

研究開発費と設備投資、減価償却費

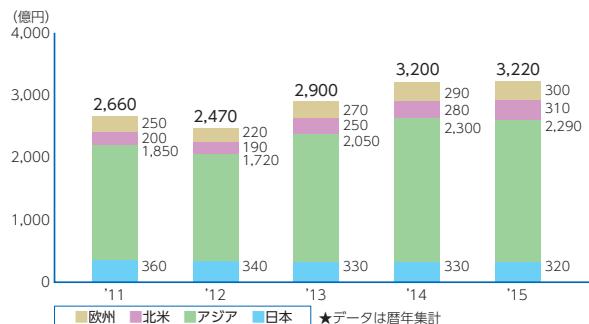
研究開発費は18億27百万円となり、対売上高比率は4%へ上昇しました。2016年度は、福岡県北九州市に研究所を開設するなど、新技術・新製品の開発に向けた活動をより一層強化するため、23億円となる見込みです。

2015年度の設備投資は36億68百万円となり、対前期比では、13億92百万円増加しました。増加した理由は、KOAグループの本社機能・研究開発拠点がある「KOAパインパーク」南側隣接地に、品質・購買・評価試験部門の一部を集結させる建物と、お客様へのサービス向上を考えた物流センターの、合わせて2つの新棟を建設したことによりです。

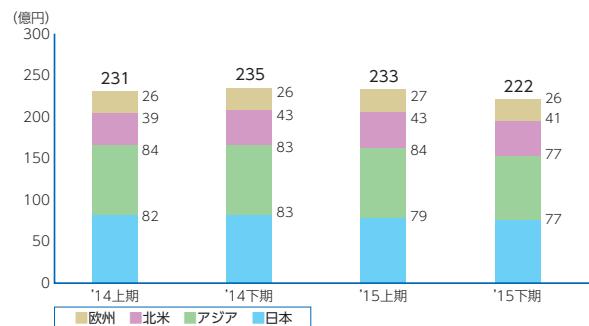
減価償却費については、23億70百万円となりました。

2016年度の年間設備投資額は25億円、減価償却費は23億円となる見込みです。

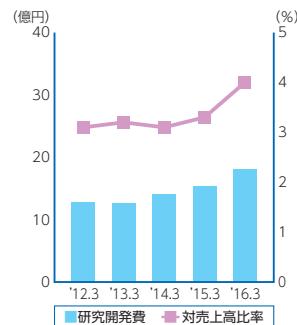
地域別固定抵抗器需要（当社推定）



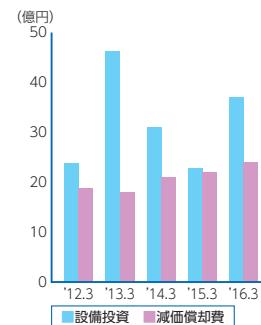
地域別売上高



研究開発費



設備投資・減価償却費



営業の概況

売上高



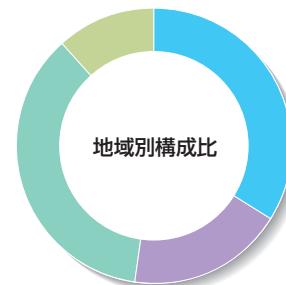
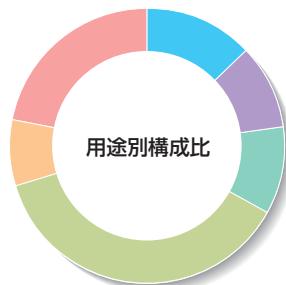
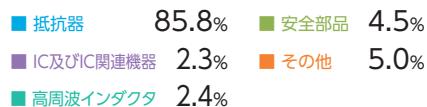
経常利益



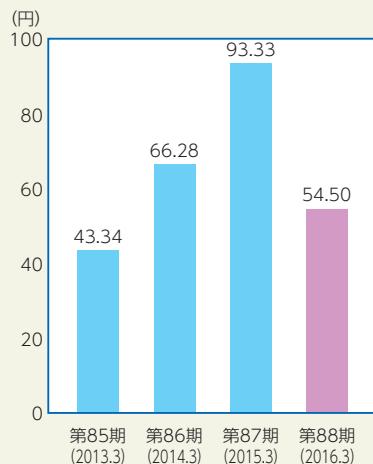
親会社株主に帰属する当期純利益



売上高構成比



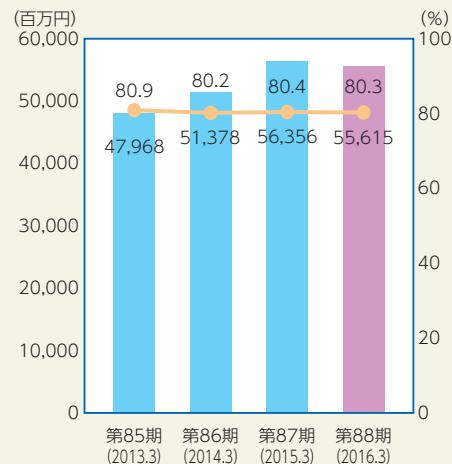
1株当たり当期純利益



総資産



純資産／自己資本比率



次期の見通し

今後の経済見通しにつきましては、米国の景気拡大等により、全体として景気は緩やかに回復するものの、中国経済の減速懸念や新興国の景気低迷等により、世界景気の先行きの不透明感は引き続き高いものと考えられます。

当社グループの属する電子部品業界におきましても、中国の景気減速が世界各地の生産・販売に影響を与えることにより、次期の受注が弱含みで推移する可能性があります。利益面においても、原材料価格の上昇、為替変動等の懸念材料があります。

このような状況を踏まえ、当社グループは、今後も抵抗器専業メーカーとして車載、航空宇宙、医療等、品質と信頼性を重視する分野と、今後の技術革新で市

場成長が期待できる分野にフォーカスし、お客様のご期待にお応えしてまいります。

具体的には、技術革新等により今後の拡大が期待される市場において、技術提案活動等の強化によって高付加価値製品の販売比率を向上させることで事業構造の改革を進め、業績向上に努めてまいります。さらに、桁違いの品質を求められる市場での競争優位性を確保するため、引き続き「ゼロディフェクト・フローの構築」を全グループの目標に掲げ、品質・信頼性向上の活動を進めてまいります。また、経費削減活動と、生産性の大幅な向上を目指した改善活動の継続により、収益性の向上を図ってまいります。

連結決算の概要

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 2016年3月31日現在	前連結会計年度 2015年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	37,222	39,329
現金及び預金	17,747	18,619
受取手形及び売掛金	11,136	12,279
有価証券	1,012	1,057
たな卸資産	4,854	5,216
その他	2,498	2,192
貸倒引当金	△ 27	△ 36
固定資産	31,947	30,642
有形固定資産	23,436	22,519
無形固定資産	535	540
投資その他の資産	7,975	7,582
資産合計	69,169	69,972
(負債の部)		
流動負債	8,802	9,047
支払手形及び買掛金	3,814	4,181
短期借入金	529	161
その他	4,459	4,704
固定負債	4,751	4,567
長期借入金	40	424
その他	4,710	4,143
負債合計	13,553	13,615
(純資産の部)		
株主資本	54,628	53,656
資本金	6,033	6,033
資本剰余金	9,012	9,012
利益剰余金	42,239	41,267
自己株式	△ 2,656	△ 2,656
その他の包括利益累計額	899	2,609
その他有価証券評価差額金	1,387	1,370
為替換算調整勘定	106	1,188
退職給付に係る調整累計額	△ 594	51
非支配株主持分	87	89
純資産合計	55,615	56,356
負債純資産合計	69,169	69,972

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 自：2015年4月1日 至：2016年3月31日	前連結会計年度 自：2014年4月1日 至：2015年3月31日
売上高	45,462	46,595
売上原価	32,140	32,957
売上総利益	13,322	13,638
販売費及び一般管理費	10,730	9,960
営業利益	2,591	3,677
営業外収益	726	1,216
営業外費用	346	246
経常利益	2,971	4,647
特別利益	2	2
特別損失	140	37
税金等調整前当期純利益	2,832	4,612
親会社株主に帰属する当期純利益	1,999	3,423

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 自：2015年4月1日 至：2016年3月31日	前連結会計年度 自：2014年4月1日 至：2015年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,397	5,254
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,532	△ 2,786
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,025	△ 869
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 454	777
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 614	2,376
現金及び現金同等物の期首残高	17,224	14,848
現金及び現金同等物の期末残高	16,609	17,224



詳しい財務情報はWebサイトのこちらでご覧いただけます

KOA IR

検索

「おてんとうさま」活動

■KOA環境方針

出発点 どうしたら地球と調和した生き方ができるのか。

理念 KOAは信州伊那谷に生まれ、育まれてきた企業です。お百姓がお百姓として自らのふるさとで生きていけるようにとの願いで、創立しました。
電子部品の製造に携わりながらも、土と水とおてんとうさまとおつきあいのなかで学び、生きとし生けるものの一人として地球との間に信頼関係を築いていきたいと考えます。
社員一人一人が自分たちをとりまく水系の命の循環に関心を持ち、「おてんとうさま」（環境マネジメントシステム）を自己責任のもと実践することで、わたしたちのふるさとを舞台に生物多様性を保全し、循環型社会のモデルを創造していきます。

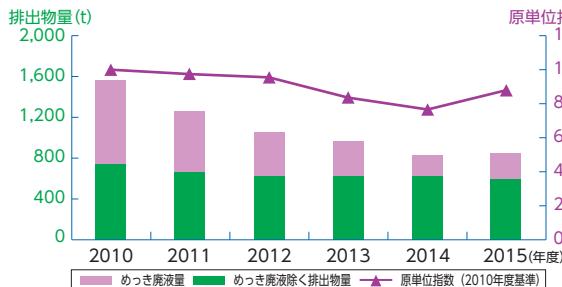
- 方針**
- 一、KOAは、開発・製造・販売活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確にとらえ、「おてんとうさま」（環境マネジメントシステム）を構築し、「おてんとうさま」の継続的改善及び環境汚染の予防を図る。
 - 一、KOAの環境活動は、社会環境対応を「おてんとうさま」活動とし、製品環境対応を品質保証活動として展開する。
 - 一、KOAの環境側面に適用可能な法規制、KOAが同意するその他の要求事項（お客様要求事項を含む）及び自主基準を順守し、環境マニュアル・品質マニュアルを基に全社員が自然環境に配慮した行動をする。
 - 一、本方針の理念に基づいて行動するため、環境に調和した業務や有限な資源の有効利用、環境負荷の少ない製品・工程、地球温暖化防止（省エネルギー）を追求し実現する環境改善活動を環境目的・目標の枠組みとして、毎年見直しをする。
 - 一、内部環境監査を実施し、自主管理による「おてんとうさま」の維持向上に努める。
 - 一、この環境方針は、KOA及びKOAグループにおいて、環境活動に携わる全ての人に周知し、環境意識の向上を図る。

2013年4月1日

KOA株式会社 代表取締役社長 花形 忠男

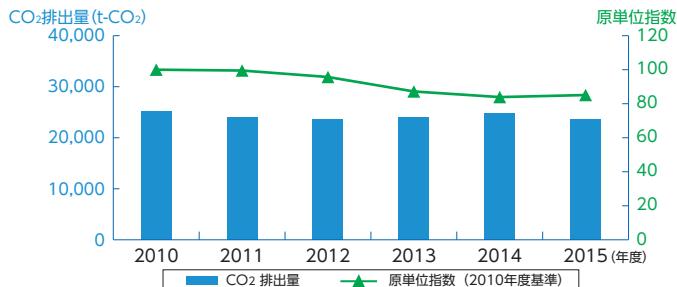
■「おてんとうさま」活動の成果

1 有限な資源の有効活用



国内KOAグループでは、2011年度から2015年度にかけて「ゼロエミッションを維持し、生産量当たりの排出物量(原単位)を2010年度以下にする」を目標に3R活動に取り組んできました。この5年間の主な取り組みとして、廃棄する材料を低減させるための設計見直し、ペーパーレスを目的としたIT化、めっき液等の長寿命化、めっき廃液のリサイクルシステム導入等により、2010年度比12%低減することができました。

2 地球温暖化防止



国内KOAグループでは、2011年度から2015年度にかけて「2015年度のエネルギー起源CO₂排出量原単位(生産量当たりのCO₂排出量)を2010年度比5%低減する」を目標に省エネに取り組んできました。主な取り組みとして、圧縮エアの漏気改善やユーティリティ設備の高効率機器への計画的な更新の全社展開、ヒートポンプ式熱源採用による重油ボイラーの廃止、制御方法の改良による電気炉の電力量削減等により、2010年度比15%低減することができました。

2016年度より、新たな目標である「2020社会環境目標」の達成に向け取り組んでいきます。

北九州学術研究都市に「北九州研究所」を開設しました



北九州学術研究都市 全景

2016年4月15日、福岡県北九州市の北九州学術研究都市に、北九州研究所を開設しました。

KOAは、研究開発型企業を目指し、国内外の研究機関・大学などと共同で要素技術開発から新製品・新規事業開発につながる活動を積極的に行っていく予定です。北九州研究所はその先駆けとして、大学・関連企業と連携し、KOAの基盤技術を応用し、新たな事業の創出を行っていきます。

北九州研究所が位置する北九州学術研究都市は、「アジアの中核的な学術研究拠点」と「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指して、北九州市が2001年に設立しました。現在、理工系大学、公的研究機関、半導体・エレクトロニクス、自動車、産業用ロボット関連の企業などが集結し、国内でも有数の研究開発拠点となっています。特に、KOAが注力しているカーエレクトロニクスやロボットなどの産業機器に携わる

企業などとの研究会も盛んに行われています。

直接イノベーションの場に身を置き、情報収集・情報発信及び各種研究会への参画により、研究機関の研究者、企業の技術者、大学院の学生などとのネットワークを構築し、研究開発型企業として新たな製品、ビジネスへ結実させてまいります。



KOA北九州研究所が入る産学連携センター

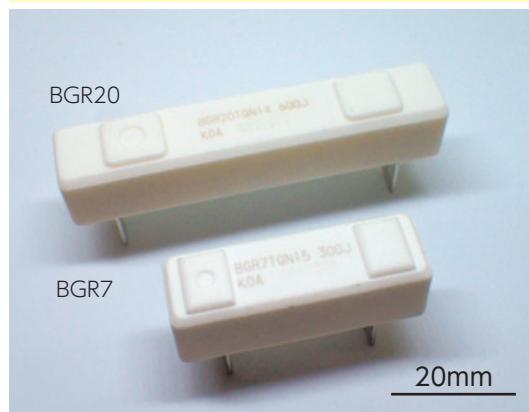
【新製品のご紹介】

大電力巻線抵抗器 BGR20/BGR7

世界各国で自動車の環境規制が厳しくなっており、その対策としてハイブリッド自動車、電気自動車など環境対応自動車の開発に自動車メーカーは力を入れています。これらの環境対応自動車は電気で駆動する大型のモーターが使用されており、大容量のバッテリーを搭載しています。バッテリーからモーター駆動回路の大容量コンデンサへ電力を供給し始める際、一時的に大電流が回路に流れ、最悪の場合回路が破壊される恐れがあります。この大電流を制限するため、定格電力の大きな電流制限用抵抗器が使用されます。

大電力巻線抵抗器 BGR20/BGR7（定格電力20W/7W）は、この電流制限用抵抗器の用途向けに開発され、小型で過負荷に強く、耐パルス性に優れるため、安全に大電流を制限します。車載でも安心して使用してもらえる高信頼性を実現しています。

車載に適した高信頼性を実現！



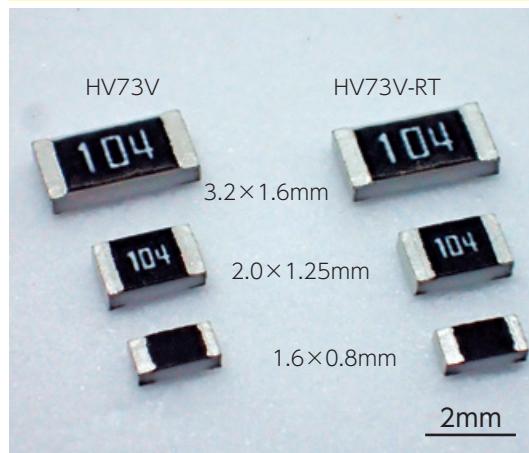
車載用高耐圧チップ抵抗器 HV73V／耐硫化タイプ HV73V-RT

ハイブリッド自動車や電気自動車は、自動車を駆動するモーター用の高電圧の電気を、高圧用バッテリーに貯めます。このバッテリー制御回路やモーター駆動回路は、流れている電気の電圧を高い精度で測定する必要があります。この電圧測定にもKOAのチップ抵抗器が使われていますが、従来品には車載に対応し、使用する高電圧に耐えられるものがなく、車載機器を製造するお客様は汎用のチップ抵抗器を直列に複数個使用していました。

車載用高耐圧チップ抵抗器HV73Vは、汎用タイプに比べ高い電圧で使用することができるため、チップ抵抗器の使用数を削減することが可能となり、回路基板面積の削減に貢献します。

また、近年大気汚染が著しい諸外国で求められている、製品を劣化させる大気中の硫黄に強い耐硫化タイプHV73V-RTもラインアップしました。

1個で高い電圧に対応！



国内拠点紹介

物流と研究開発の新拠点 South Wing , West Wing 竣工



South Wing（手前）とWest Wing（奥）

2016年1月15日、KOAグループの本社機能がある「KOAパインパーク」南側隣接地に、新拠点South WingとWest Wingが竣工しました。それぞれ、物流センター、試験・研究開発部門としての役割を担います。

South Wing

お客様納入先ごとに集約出荷

South Wingは、各生産拠点の製品をお客様の納入先ごとに集約出荷する重要拠点です。旧物流センターの老朽化に伴い、移転・新築されました。

建物は鉄骨造1階建て、延べ床面積は2,650㎡。荷さばき室に直結するかたちで、6台のトラックが同時に駐車できるプラットフォームがあります。長さ7mの庇も設置したことで、天候に左右されずに製品の積み下ろしが可能となり、旧物流センターと比べ格段に

スムーズかつ安全になりました。

また、旧物流センターでは2フロアに分かれていた作業室を約900㎡の1フロアに集約しています。このスペースは、十二分な耐震性を確保しながら柱が1本もありません。これにより作業効率を極めた整然とした動線レイアウトが可能となりました。約30mの自動搬送レーンも設け、作業者の負担軽減も図っています。



South Wing 作業室

物流版KPSのさらなる進化

物流の新拠点の建設にあたって、設計・施工業者様

に旧物流センターでの作業をご覧いただいたところ、少人数で効率的な運営が行われているとの高い評価を得ました。当時の作業環境は決して優れたものではなかったにもかかわらず、受注生産による当日入荷・当日出荷が厳守され、入荷した時点で納入先が確定している仕組みが整い、入荷からお客様到着までのリードタイムも短く、出荷精度が非常に高かったからです。いずれも、全員参加型の改善活動であるKPS改善活動(KOA Profit System)に、物流という側面から地道に取り組んできた成果でした。

South Wingには、こうして培ったノウハウを結晶させました。KOAの品質方針である「一箇一個が私の保証です」を物流の現場からもお約束し、お客様・お取引先様との信頼関係構築に寄与していきます。

West Wing

新製品の信頼性評価の場

West Wingは、研究開発型企业に向けた試験所の新拠点です。新製品開発や要素技術開発のための評価試験、製品環境分析試験所、品質保証部門で行っていた既存製品の定期試験、測定器の校正業務機能を集約しました。

鉄骨造1階建て、延べ床面積2,760㎡の建物は、西側より試験棟、研究開発棟、事務棟の3棟で構成され、各々にコンセプトカラーを設けることで、棟ごとの機能を際立たせています。屋根には断熱塗料を施し、試験装置を置く環境試験室には気化放熱式涼風装置を導入するなど省エネに配慮しました。このほか、廊下から室内が見えるように壁の一部をガラス張りにした試

験室やホスピタリティの高いお客様用エントランスなど、見せる試験所を強く意識しています。

試験棟では、新製品の信頼性試験、試験技術の構築と伝承、製品の信頼性維持、計測器の校正を役割とし、お客様からご指名いただけるよう、高信頼性製品の提供や試験技術の確立に努めています。



West Wing お客様用エントランス

評価・分析技術の構築へ

研究開発棟は、お客様とのつながり強化、評価・分析技術の構築、人材育成と技術の伝承、製品環境試験としての機能を担います。棟内には、お客様とともに新製品の創出を実践する「共創の場」を設け、ここに分解した自動車を設置する予定です。お客様と将来の技術についてお話ししたり、技術者の技能向上に役立てたりできます。

KOA製品が実際に使われている環境を想定した様々な試験を行うことでデータを蓄積し、製品に生じる現象を明確に解明・説明できることは、今後市場やお客様にとって価値ある新製品を生み出していくうえでも重要です。この新拠点でKOAは、評価・分析技術をより一層高めていきます。

本社・技術拠点

本社 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016
KOAパインパーク内アースウイング
〒399-4697 ☎ 0265 (70) 7171
FAX 0265 (70) 7711

経営管理イニシアティブ

経営戦略センター ☎ 0265 (70) 7173
FAX 0265 (70) 7992

総務センター ☎ 0265 (70) 7171
FAX 0265 (70) 7711

人事教育センター ☎ 0265 (70) 7177
FAX 0265 (70) 7711

知的財産センター ☎ 0265 (70) 7179
FAX 0265 (70) 7712

情報システムセンター ☎ 0265 (70) 7275
FAX 0265 (70) 7276

CSR推進センター ☎ 0265 (70) 7065
FAX 0265 (70) 7994

技術イニシアティブ

☎ 0265 (70) 7175
FAX 0265 (70) 7712

伊那事業所 長野県伊那市荒井3672
〒396-8585 ☎ 0265 (78) 6622
FAX 0265 (78) 5266

West Wing 長野県上伊那郡南箕輪村北原1634-17
West Wing 〒399-4511

品質保証イニシアティブ ☎ 0265 (73) 9156
FAX 0265 (78) 2128

ハローウイング 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016
KOAパインパーク内 〒399-4697

ものづくりイニシアティブ
生産戦略センター ☎ 0265 (79) 1481
FAX 0265 (79) 1409

北九州研究所 北九州市若松区ひびきの2-1
北九州学術研究都市
産学連携センター407号室
〒808-0135 ☎ 093 (833) 8226
FAX 093 (833) 8251

営業拠点

東洋ビジネスフィールド 横浜市港北区新横浜2-13-13
KM第一ビルディング2F
〒222-0033 ☎ 045 (476) 1800
FAX 045 (476) 1809

営業支援センター ☎ 045 (476) 1800
FAX 045 (476) 1809

物流センター 長野県上伊那郡南箕輪村北原1634-17
South Wing 〒399-4511 ☎ 0265 (76) 9110
FAX 0265 (76) 9138

むさし野工房 東京都府中市緑町2-17-2
〒183-0006 ☎ 042 (336) 5300
FAX 042 (336) 5353

販売イニシアティブ ☎ 042 (336) 5300
FAX 042 (336) 5353

国際営業センター ☎ 042 (336) 5755
FAX 042 (336) 5353



(各営業所)

仙台営業所 仙台市宮城野区榴岡5-12-55NAVISビル5F
〒983-0852 ☎ 022 (292) 3303
FAX 022 (292) 6606

水戸営業所 茨城県ひたちなか市足崎字西原1445-31
〒312-0003 ☎ 029 (273) 4651
FAX 029 (274) 8824

高崎営業所 群馬県高崎市和田町2-3東邦ビル4F 401号室
〒370-0847 ☎ 027 (320) 8760
FAX 027 (320) 8766

むさし野営業所 東京都府中市緑町2-17-2
〒183-0006 ☎ 042 (336) 5757
FAX 042 (336) 5353

東京営業所 横浜市港北区新横浜2-13-13KM第一ビルディング2F
〒222-0033 ☎ 045 (476) 1820
FAX 045 (476) 1814

伊那営業所 長野県伊那市荒井3672
〒396-8585 ☎ 0265 (78) 6622
FAX 0265 (78) 5266

静岡営業所 静岡県駿河区馬淵3-2-25 TKビル5F
〒422-8063 ☎ 054 (282) 5166
FAX 054 (282) 5466

名古屋営業所 名古屋市名東区社台3-230グランドビル4F
〒465-0092 ☎ 052 (774) 2821
FAX 052 (774) 2891

大阪営業所 大阪市淀川区西中島7-1-5辰野新大阪ビル6F
〒532-0011 ☎ 06 (6885) 0822
FAX 06 (6885) 6388

生産拠点

イーストウイング 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016
KOAパインパーク内
〒399-4697 ☎ 0265 (79) 9080
FAX 0265 (79) 9079

箕輪工場 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪8633
〒399-4601 ☎ 0265 (70) 5390
FAX 0265 (79) 8980

西山工場 長野県伊那市西箕輪2445
〒399-4501 ☎ 0265 (73) 7166
FAX 0265 (73) 6112

MINOWAウイング 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016
KOAパインパーク内
〒399-4697 ☎ 0265 (79) 8471
FAX 0265 (79) 7079

中央工場 長野県上伊那郡南箕輪村5061
〒399-4511 ☎ 0265 (77) 3513
FAX 0265 (72) 4397

七久里の社 長野県下伊那郡阿智村春日1088-1
〒395-0301 ☎ 0265 (45) 1711
FAX 0265 (45) 1717

匠の里 長野県飯田市桐林2441-1
〒399-2565 ☎ 0265 (26) 7701
FAX 0265 (26) 7732

国内グループ会社

興亜エレクトロニクス株式会社

長野県下伊那郡阿南町西条733 〒399-1504
☎ 0260 (22) 2261 FAX 0260 (22) 3356

興亜販売株式会社

東京都千代田区神田須田町1-7-1高橋ビル3F 〒101-0041
☎ 03 (3255) 5521 FAX 03 (3251) 7648

真田KOA株式会社

長野県上田市真田町長5688-6 〒386-2201
☎ 0268 (72) 3770 FAX 0268 (72) 8232

鹿島興亜電工株式会社

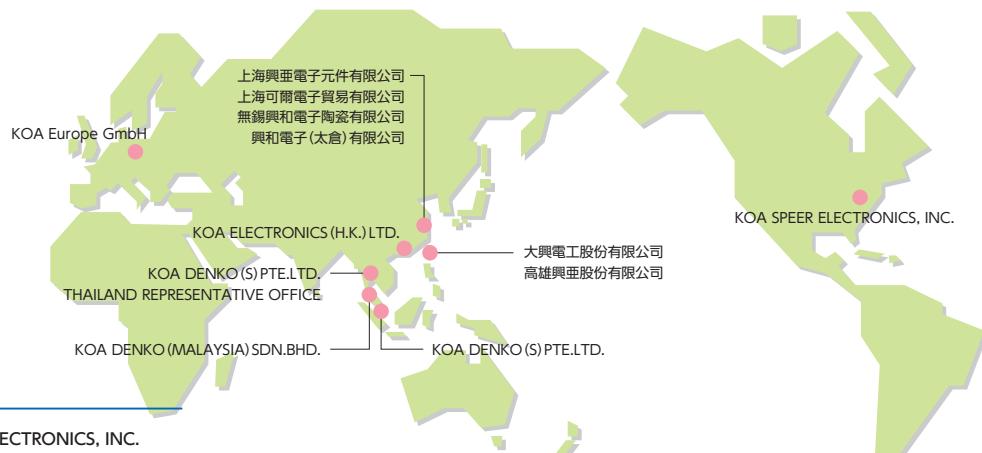
石川県鹿島郡中能登町武部は部11 〒929-1802
☎ 0767 (76) 1111 FAX 0767 (76) 0500

日本電子応用株式会社

富山県砺波市矢木137 〒939-1317
☎ 0763 (33) 5700 FAX 0763 (33) 5755

興亜化成株式会社

長野県伊那市御園180-2 〒396-0022
☎ 0265 (72) 7264 FAX 0265 (76) 0006



海外の拠点

アメリカ/KOA SPEER ELECTRONICS, INC.

199 BOLIVAR DRIVE BRADFORD PA
16701 USA
☎ (1) 814-362-5536
FAX (1) 814-362-8883

ドイツ/KOA Europe GmbH

KADDENBUSCH 6
D-25578 DÄGELING ITZEHOE GERMANY
☎ (49) 4821-89890
FAX (49) 4821-898989

マレーシア/KOA DENKO(MALAYSIA)SDN.BHD.

LOTS 7,8&9 BATU BERENDAM, FTZ
75350 MALACCA, MALAYSIA
☎ (60) 6-2328031
FAX (60) 6-2328030

シンガポール/KOA DENKO(S)PTE.LTD.

72 BENDEMEER ROAD #06-28
LUZERNE SINGAPORE 339941
☎ (65) 63395151
FAX (65) 63398556

タイ/KOA DENKO(S)PTE.LTD.

THAILAND REPRESENTATIVE OFFICE
38 Q.HOUSE CONVENT BLDG.7TH FLOOR
UNIT 7CD, CONVENT RD.,SILOM, BANGRAK,
BANGKOK 10500 THAILAND
☎ (66) 2632-0382
FAX (66) 2632-0903

中国/上海興亜電子元件有限公司

中国上海市漕河泾新興技術開發区桂平路581号
☎ (86) 21-64850723
FAX (86) 21-64852960

中国/上海可爾電子貿易有限公司

中国上海市漕河泾新興技術開發区桂平路581号
☎ (86) 21-64320101
FAX (86) 21-64320083

中国/無錫興和電子陶瓷有限公司

中国江蘇省宜興市和橋鎮西鋤村向山路1号
☎ (86) 510-87871645
FAX (86) 510-87871626

中国/興和電子(太倉)有限公司

中国江蘇省太倉市太倉經濟開發区洛陽東路77号
☎ (86) 512-53561111
FAX (86) 512-53561600

香港/KOA ELECTRONICS(H.K.)LTD.

UNIT 2315, METROPOLIS TOWER, 10
METROPOLIS DRIVE HUNGHOM,
KOWLOON, HONG KONG
☎ (852) 2492-6918
FAX (852) 2492-7398

台湾/大興電工股份有限公司

中華民國台北市南京東路1段34号平安大樓11樓
☎ (886) 2-25214166
FAX (886) 2-25641859

台湾/高雄興亜股份有限公司

中華民國高雄市楠梓加工出口区開發路17之2号
☎ (886) 7-363-4157
FAX (886) 7-363-4543

会社概要 (2016年3月31日現在)

会社概要

社名	コーア株式会社 (KOA CORPORATION)
所在地	本社 〒399-4697 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016番地 KOAパインパーク内アースウイング TEL：0265-70-7171（代表） （登記上の本店） 長野県伊那市荒井3672番地
創立	1940年3月10日（昭和15年）
資本金	6,033百万円
事業内容	各種電子部品の開発・製造・販売

取締役及び監査役

代表取締役会長	向山 孝一
代表取締役社長	花形 忠男
常務取締役	深野 香代子
取締役	林 琢夫
取締役	百瀬 克彦
取締役	野々村 昭
取締役	山岡 悦二
取締役	湯沢 優
※取締役	マイケル・ジョン・コーバー
常勤監査役	遠藤 和夫
監査役	澤 良一
※監査役	上拾石 哲郎
※監査役	重宗 信行

(注) ※印の取締役及び監査役は社外役員であります。

KOAのIRサイトをご覧ください



IRサイトTOP



財務ハイライト



営業の概況

決算関連資料のご案内

事業報告書・中間事業報告書のバックナンバーなど資料のご提供の用意がございます。ご希望の方は下記あてにご照会ください。

事業報告書・中間事業報告書 |
決算短信 | 四半期決算短信

【お問い合わせ】

KOA株式会社 経営管理イニシアティブ
総務センター

TEL:0265-70-7171
FAX:0265-70-7711

<http://www.koaglobal.com/ir>

株式の状況 (2016年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	150,000,000 株
発行済株式の総数	40,479,724 株
株主総数	6,548 名

上場証券取引所

東京証券取引所 市場第一部
名古屋証券取引所 市場第一部

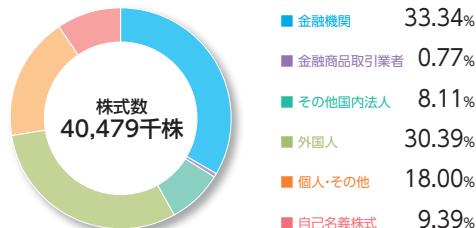
大株主の状況

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
CREDIT SUISSE AG	3,461,200	9.44
日本生命保険相互会社	2,226,650	6.07
株式会社八十二銀行	1,832,400	4.99
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,452,100	3.96
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	1,313,200	3.58
CREDIT SUISSE AG SINGAPORE TRUST A/C FOR PHYCOMP HOLDING B. V.	1,279,700	3.49
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,022,000	2.78
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,000,000	2.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,000,000	2.72
BANK JULIUS BAER AND CO. LTD. SINGAPORE CLIENTS	871,900	2.37

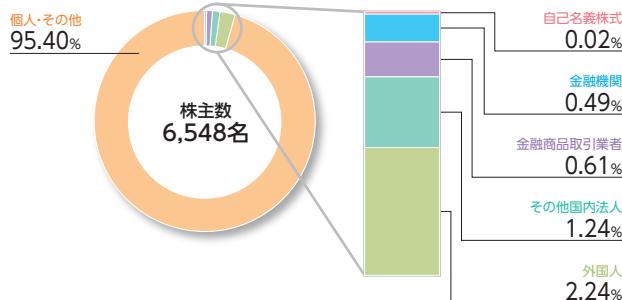
(注) 1. 当社は、自己株式3,802,131株を保有しておりますが、上記には記載しておりません。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式の分布状況

【所有者別持株比率】



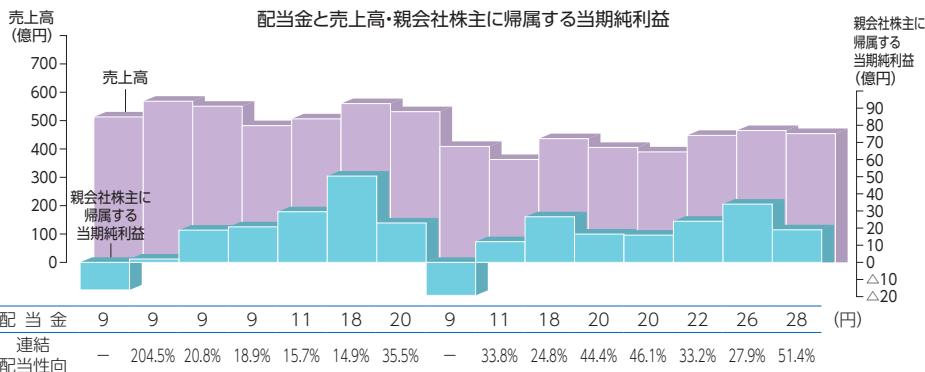
【所有者別株主比率】



連結配当性向

<配当政策>

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要政策の一つと考えており、急速な技術革新に対応した設備投資や研究開発による競争力の維持・強化及び財務体質の強化を図ると同時に、配当水準の安定と向上に努めることを基本方針としております。



2002 '03 '04 '05 '06 '07 '08 '09 '10 '11 '12 '13 '14 '15 '16 (年)

株式の手続きに関するご案内

●特別口座で株式をご所有の株主の皆様へ

株券電子化により、すべての上場会社の株式は、証券会社などの口座管理機関の口座にて電子的に管理されております。株券電子化移行時点で、ご所有の株式を証券保管振替機構（ほふり）に預託されなかった株主様につきましては、当社の株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行に「特別口座」を開設させていただいております。しかしながら、特別口座の株式につきましては、特別口座のままでは売買ができませんので、特別口座から証券会社口座への振替等をお願いいたします。

▶特別口座に記録されているかどうかのご確認方法について

下記、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問い合わせください。

▶特別口座から証券会社口座への振替方法について

特別口座に記録されている株式を市場にて売却される際には、証券口座へ振替のお手続きが必要となります。あらかじめ証券会社に株主様の口座を開設いただき、振替申請を行っていただきますようお願いいたします。

※すでに株主様が証券会社に口座をお持ちの場合は「② → ③」の手順のみとなります。



▶証券会社口座への振替以外に、売買を行う方法について（単元未満株式に限る）

当社は単元（100株）未満株式の買取・買増制度を採用しております。特別口座に記録された単元未満株式について当社へ買取または買増請求を行うことができますので、三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。なお、買増請求を行っていただき単元（100株）株式にされましても、特別口座では株式の売買ができませんので、証券会社口座を開設され、証券会社に振替えたうえで、単元株式になるようご請求※いただくことをおすすめいたします。

※証券会社口座に振替後のお手続きにつきましては、口座を開設された証券会社にご依頼ください。

買取制度

ご所有の単元未満株式を当社が市場価格で買取らせていただく制度です。

買増制度

ご所有の単元未満株式と併せて1単元株式（100株）となるように、株主様に当社から不足分の株式を市場価格でご購入いただく制度です。

《具体例》

株主様が現在70株をご所有の場合、当社を通じて30株をご購入いただき、合計100株とすることができます。



●お問い合わせ先

特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

（連絡先）

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711（通話料無料）

（窓口によるお取り次ぎについて）

三菱UFJ信託銀行 本店及び全国各支店においても受付けております。

年間 IR カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
決算発表	● 期末決算			● 第1四半期決算			● 第2四半期決算			● 第3四半期決算		
株主総会	● 招集ご通知発送 ● 定時株主総会											
配当金支払				● 期末配当						● 中間配当		
事業報告書	● 事業報告書発送									● 中間事業報告書発送		

IRのお問い合わせ先はこちらです

電話：0265-70-7171

FAX：0265-70-7711

KOA株式会社

経営管理イニシアティブ総務センター

ホームページ内「お問い合わせ」

<https://www.koaglobal.com/contact/othersForm>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月	
基準日	定時株主総会	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
単元株式数	100株	
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	
特別口座の口座管理機関		
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)	
公告の方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.koaglobal.com ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。	

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行で承りますので、上記までお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



表紙の絵について

「金魚」

絵：今村由男

長野県生まれ。

日本版画協会会員



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。